



大学共同利用機関法人  
人間文化研究機構

令和6年 **7.27** 土 13時~17時 (12時30分開場)

| 会場 | 国際日本文化研究センター講堂 (京都市西京区)  
及びオンライン配信 (Zoomウェビナー)

| 定員 | 会場300名 / オンライン500名

| 登壇者 | **金 俊 淵** (高麗大学校 教授)

**永井 正勝** (人間文化研究機構 特任教授 / 国立民族学博物館)

**ハラルド・クマレ** (ドイツ日本研究所 主任研究員)

| 主催 | 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

| 共催 | 高麗大学校文科大学、Digital-HUSS コンソーシアム、  
「国際日本研究」コンソーシアム

| 後援 | 文部科学省

| 申込締切 | 7月24日 (水) 17時

# 人文学の未来

## デジタル・ヒューマニティーズが拓く

— 第42回人文機構シンポジウム 参加無料 / 事前申込制 / 手話通訳あり / 日本語・韓国語同時通訳あり —



デジタル・ヒューマニティーズ(DH)とは、情報学を背景とするデジタル技術を人文学に応用する手法のことである。人間文化研究機構では、DHは他分野の研究者が新たな研究領域を共創する場であり、また次の世代への知を創り出す基盤ともなると考えて、その推進を重要課題としている。今回、日文研が「国際日本研究」コンソーシアムの研究者ネットワークを活用して開催する本シンポジウムは、まずDH分野の先駆である韓国からの現況紹介を受け、機構、上記コンソーシアム加盟研究機関、日文学術交流協定校、それぞれ所属の研究者による報告と続き、最後に鼎談へと進む。デジタル環境の特性を活かし組織、国・地域、研究分野、などの壁をこえる連携や技術革新がテーマとなろう。市井の人にも馴染みある学問である人文学、その人文学の未来をDHで拓くという知的興奮を味わっていただきたい。

## 登壇者紹介



**金 俊淵** (Kim Joonyoun)  
高麗大学校 教授

- ・ Ph. D. in Chinese Literature, Seoul National University
- ・ Professor / Department of Chinese Language & Literature, Korea University
- ・ Premodern Chinese Poetry, East Asian Studies
- ・ Cognitive Poetics, Literary Geography, Digital Humanities
- ・ Associate Dean of College of Liberal Arts (2017-2018)
- ・ Head of Graduate School of East Asian Studies (2021-2023)
- ・ Director of BK21 FOUR R&E Center for East Asian Studies (2021-Present)



**永井 正勝** (ながい まさかつ)  
人間文化研究機構 特任教授 / 国立民族学博物館

専門は古代エジプト言語学、デジタル・ヒューマニティーズ。博士(言語学)。古代エジプトの資料をデジタル世界に乗せて分析・表現することに関心を持ち、「ヒエラティック古書体学」データベース」を構築。著書に『必携入門ヒエログリフ—基礎から学ぶ古代エジプト』などがある。日本オリエント学会奨励賞、情報処理学会山下記念研究賞などを受賞。



**ハラルド・クマレ** (Harald KUEMMERLE)  
ドイツ日本研究所 主任研究員

ドイツ・アウクスブルク出身。理学修士(ミュンヘン工科大学、数学)、文学修士(慶應義塾大学、日本語教育学)、文学博士(マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク、日本学)。ドイツ日本研究所で主任研究員として勤務。専門分野は科学史、科学技術社会論、デジタル・ヒューマニティーズ。

## プログラム

- 13:00 開会挨拶**  
木部 暢子 (人間文化研究機構 機構長)
- 13:05 趣旨説明**  
井上 章一 (国際日本文化研究センター 所長)
- 13:20 基調講演 (韓国語)**  
**Consideration of the Direction of Digital Humanities in Literature Research**  
(文学研究から見たデジタルヒューマニティーズの行方)  
金 俊淵 (高麗大学校 教授)
- 休憩
- 14:40 発表 1 (日本語)**  
**人文学の資料をデジタル世界に乗せて活用する**  
—人文学からみたDHの魅力—  
永井 正勝  
(人間文化研究機構 特任教授 / 国立民族学博物館)
- 15:20 発表 2 (日本語)**  
**認識的徳の観点から見た日本の科学インフラ**  
—事例研究で得られた知見—  
ハラルド・クマレ  
(ドイツ日本研究所 主任研究員)
- 休憩
- 16:20 ラウンドテーブル・ディスカッション**  
**登壇者全員による鼎談**  
総司会: 関野 樹  
(国際日本文化研究センター 教授)
- 17:00 閉会**

## 申込方法

詳細・お申込みは以下のWEBサイトをご覧ください。  
▶ 人文機構 HP  
<https://www.nihu.jp/ja/event/symposium/42>



## アクセス

- ▶ JR京都駅(烏丸中央口)から  
・京阪京都交通バス「21」、「21A」、「26」で約45分
  - ▶ JR桂川駅から  
・ヤサカバス「1」、「6」で約30分
  - ▶ 阪急桂駅(西口)から  
・京都市バス「西5」、「西6」で約30分  
・京阪京都交通バス「20」、「20B」で約20分
- ※バスはいずれも「桂坂中央」行き、「桂坂小学校前」又は「花の舞公園前」下車で徒歩約5分  
※お車でのご来場は近隣へのご迷惑となりますので、お断りしております。やむを得ない事情がおありの場合はその旨、事前にご相談ください。なお、ご希望に添えない場合もございますので予めご了承願います。

**お問合せ** E-mail: nihusympo@cscenter.co.jp  
Tel: 075-241-9620

## 国際日本文化研究センター / Nichibunken

